施策評価（令和4年度）

施策評価調査

戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	文化振興課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和4年8月29日

1 施策のねらい（施策の目的）

多くの訪日客を迎える東京オリンピック・パラリンピックは、本県の文化を国内外にアピールできる絶好のチャンスであることから、多彩な文化事業を実施し、秋田ならではの文化を国内外に発信することで、交流人口の拡大につなげていきます。

また、本県の文化を発展させ、次の世代に継承していくため、文化団体の活動の活発化や若手の人材育成に取り組むとともに、本県文化の中核拠点となる文化施設の整備を推進します。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①							施策の方向性(1)～(3)		
年度	現状値(H28)	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考		
文化事業への来場者数(人)	目標			455,000	460,000	465,000	470,000		
	実績	449,311	315,365	465,879	450,445	54,435	69,947		
	達成率			102.4%	97.9%	11.7%	14.9%		
出典: 県文化振興課調べ		指標の判定		a	b	e	d		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
	東北	-	-	-	-	-	-		
<ul style="list-style-type: none"> 本県の芸術文化活動の振興に寄与し、かつ公益性のある文化事業について積極的に後援した（46件（対前年度比+3件））ほか、県内の文化団体等が行う交流人口の拡大等に資する取組3件（対前年度比△6件）について助成（「文化による地域の元気創出事業費補助金」）等を行ったが、新型コロナウイルス感染症の長期化により、令和3年10月に男鹿市で開催する予定だった「新・秋田の行事（2日間で見込み来場者30,000人）」が2年連続で中止になるなど、目標を大きく下回った。 									

※ 指標の判定基準

「a」：達成率≥100% 「b」：100%＞達成率≥90% 「c」：90%＞達成率≥80%

「d」：80%＞達成率 又は 現状値＞実績値(前年度より改善) 「e」：現状値＞実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

成果・業績指標①							施策の方向性(1)(2)		
年度	現状値(H28)	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考		
「beyond2020プログラム」認証事業数(件)	目標			20	30	40	50		
	実績	-	7	37	38	23	25		
	達成率			185.0%	126.7%	57.5%	50.0%		
出典: 県文化振興課調べ		指標の判定							
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
	東北	-	-	-	-	-	-		
<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、国が日本文化の魅力をWebサイト等で世界に向けて紹介する「beyond2020プログラム」について、平成30年4月から本県も認証組織になったことから、県内文化団体等に対する同プログラムの周知に努めるとともに、「文化による地域の元気創出事業費補助金」において同プログラムの認証を受けることを交付要件としたこと等で認証件数が増加していたが、新型コロナウイルス感染症の長期化により、令和3年度の事業申請数が伸び悩み、目標を下回った。 									

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

（1）秋田ならではの文化資源のPRと、文化を通じた交流人口の拡大【文化振興課】

	指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 県内文化団体等への「beyond2020プログラム」の周知等に努めるとともに、民間団体が企画する芸術文化活動等の開催経費に対して助成する「文化による地域の元気創出事業費補助金」において、同プログラムの認証を受けることを交付要件としたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大の長期化により、認証件数は25件<+2件>にとどまった。 あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」及びFacebookにおいて、県主催事業やあきた文化交流発信センターのイベント情報等を随時発信した。「ブンカDEゲンキ」のページビュー数は99,905回<+14,862回>、Facebookの「リーチ」数は9,858件<+473件>であった。 文化団体による民謡や音楽、ダンスなどの文化イベント開催や、美術、文芸作品の展示など、県民が日常的に鑑賞できる場である「あきた文化交流発信センター（秋田駅前商業施設内）」において、民謡や秋田万歳等の伝統芸能をはじめとする文化イベントを開催したほか、書道・いけばな・写真や本荘ごてんまりなどの展示を実施し、文化イベントの開催数（文化イベント117件<+35件>、展示17件<+3件>）が増えたものの、密を避けるため、座席を空けるなどの対策を講じたことから、来場者数は延べ9,644人<+1,355人>にとどまった。 		

<新型コロナウイルス感染症の影響>

- 伝統行事「男鹿のナマハゲ」にスポットを当て、男鹿市において本県を代表する伝統芸能等が一堂に会する「新・秋田の行事」や本県を聖地として世界に発信する「舞踊・舞踏フェスティバル」が中止となった。
- 県民の芸術文化の鑑賞機会を創出するため、「民謡」、「祭り・伝統行事」、「舞台芸術」の3分野について、感染防止対策を講じながら、有観客とオンライン配信併用イベントを実施した（有観客430人、ライブ配信等4,093回）。

（2）文化団体の活動促進と次代を担う人材の育成【文化振興課】

	指標	代表①、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化活動を促進するため、「あきた県民文化芸術祭」を開催（令和3年9～11月）したが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県、市町村、文化団体による35件<+3件>の文化事業への参加にとどまった。また、学術とメディア芸術の分野で2人に「秋田県芸術選奨」を、芸術の分野で1団体に「ふるさと文化賞」をそれぞれ贈り、優れた創作活動を顕彰した。 将来性のある音楽家の発掘・育成を目的とした「青少年音楽コンクール」を開催した（延べ161人参加<△16人>）。また、県民の文芸活動の創作意欲の高揚と文芸活動の普及振興を図ることを目的に、広く県民（県外の県出身者を含む）から文芸作品を公募し、受賞作品を掲載した作品集を刊行した（応募作品255点<△16点>）。 若者の力で秋田を元気にする目的で実施した「アーツアーツあきた」において、本県で活躍するアーティストによる工芸、彫刻、絵画、映像分野の美術展覧会を開催した（出展アーティスト7人<+3人>、来場者数734人<△22人>）ほか、展覧会等での発表を希望する若手アーティストを募り、活動を支援した（アーティスト3人<±0人>、来場者数1,009人<△214人>）。 秋田県芸術文化振興基金により、民間団体の多彩な芸術文化活動や若者の文化活動に対して支援を行った（7件<△2件>）。 		

<新型コロナウイルス感染症の影響>

- 本県の祭りや伝統行事への関心が低下しないように、歴史的背景や所作をわかりやすく紹介するほか、実演を組み入れた体験プログラムを作成し、秋田ならではの文化の魅力を再発見する機会とするとともに、地域の担い手育成や文化団体等の活動支援を行うことで本県の多彩な文化資源の維持・継承を図る取組を行った。（体験プログラム数2件）

（3）本県文化の中核拠点となる文化施設の整備【文化振興課】

	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> 秋田市と連携して整備を進めている「あきた芸術劇場ミルハス」については、5月20日に工事を完成させ、6月5日に開館記念式典を、9月23日にグランドオープン記念の特別公演を行うなど、秋田の文化の中核拠点としての活用を本格化させていくこととしている。 あきた芸術劇場ミルハスの開館に向け、県民・市民の機運醸成と施設の更なる周知を図るため、令和3年11月に横手市民会館等においてダンス&ミュージックワークショップを開催（参加者69人）したほか、翌年3月に秋田市文化創造館においてツリーアートイベント（参加者23人）を、同3月にふれあーるAKITAで秋田県民会館写真展（来場者237人）を開催した。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「d」判定であり、定量的評価は「D」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。					
満足度	調査年度	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	18.1%	17.0%	13.9%	12.9%	△1.0
	十分 (5点)	2.4%	2.5%	2.0%	1.7%	△0.3
	おおむね十分 (4点)	15.7%	14.5%	11.9%	11.2%	△0.7
	ふつう (3点)	39.7%	40.6%	42.1%	38.4%	△3.7
	否定的意見	27.4%	28.3%	28.9%	34.0%	+5.1
	やや不十分 (2点)	18.5%	18.9%	19.1%	20.7%	+1.6
	不十分 (1点)	8.9%	9.4%	9.8%	13.3%	+3.5
	わからない・無回答	14.9%	14.1%	15.1%	14.8%	△0.3
	平均点	2.81	2.79	2.73	2.62	△0.11
調査結果の認識、取組に関する意見等						
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.62」で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。</p> <p>「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.9%、「ふつう」は38.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.0%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は51.3%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統芸能などは、国外の人はめずらしいと思うのでアピールしてほしい。外国人向けに、里山や伝統芸能のツアーを旅行会社に企画してもらい、宿泊させてはどうか。(男性/70歳以上/山本地域) ・秋田に住んでいても、かまくら、なまはげといった全国的なものしか分からないので、まずは県内の人に知られていない部分をアピールするべき。(女性/60歳代/平鹿地域) ・県内の文化は魅力がたくさんあると思う。しかし、それを県外に発信することが下手なように感じる。(男性/40歳代/由利地域) 						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等 により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、本県の芸術文化に触れる鑑賞等の機会が低下しており、その魅力を十分に発信にできていない。</p> <p>● 秋田に住んでいても、かまくら、なまはげといった全国的なものしか分からないので、まずは県内の人に知られていない部分をアピールすべき。(県民意識調査より)</p>	<p>○ アフターコロナを見据え、感染症対策を講じながら、引き続き、芸術文化活動を推進するとともに、民間の人的資源やノウハウを活用しながら秋田ならではの文化の魅力を県内外に積極的に発信する。</p> <p>● 民謡や伝統芸能等、本県が誇る文化について、県民が気軽に発表・鑑賞できる「あきた文化交流発信センター」や、文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」などで紹介するほか、あきた芸術劇場ミルハスでの公演開催や館内での映像再生等により積極的に情報発信を行っていく。</p>
(2)	<p>○ 多くの文化団体等が活動の機会が失われていることに加え、担い手の高齢化で後継者不足や活動を実施するための資金不足等の課題を抱えているほか、若者が文化に触れる機会の確保や育成の観点で取り組んでいる事業への参加が伸びない。</p>	<p>○ 文化団体等の活動への助成をはじめ、若者の作品発表機会の充実を図るほか、新たに質の高い音楽の鑑賞や技術指導などを通じた音楽文化の向上を図るとともに、県内外の若者に本県の伝統芸能に関心を持ってもらえるよう、由来等の紹介や実演を組み入れた体験プログラムの作成に引き続き取り組み、県全体で若者育成の機運の醸成を図る。</p>
(3)	<p>○ 令和4年6月に開館する「あきた芸術劇場ミルハス」については、質の高い文化芸術活動の推進や賑わいづくりが求められている。</p>	<p>○ 東北最大級の規模を誇るミルハスでは、グランドオープンとなる9月以降、多彩な文化芸術の公演や全国レベルの会議等が行われるほか、エントランスロビーなどホール以外の空間を活用したイベント開催などにより、賑わいの創出を図っていく。</p>

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

<p>自己評価の「D」をもって妥当とする。</p>